

始業式を終えて 校長 三輪 秀文

始業式前の体育館は、午前9時とはいえ、うだるような暑さです。それでも、子どもたちは、当たり前のように、整然と並んでいきます。

心なしか、2学期への期待感が高まります。

暑いから、校長式辞を短めにとの配慮をしようと思ったのですが、それがそれが、子どもたちの顔がしっかりあがっているのです。こういう場ではいつも、校長の話なんて聞いてくれているのだろうか、と自信をなくしてしまうこともあるのですが、こちらを見つめ



校長室前の向日葵

る子どもたちの目の多さに押されて、私たち教師の研修会で、「こうなってほしい長四中」という教師アンケートの結果を交流したことに触れて、三つのことを話しました。

一つは、「雑談でもいいから、もっともっと子どもたちの様子やよい所を気軽に話しましょう。子どもの悪いところばかりを言わないように！子どものせいにはばかりしないように！」ということについてです。人間というのは、悪いところ、気になるところに目がいきやすいものです。夏休み中に、夏祭りでお手伝いをして、地域の人にほめられた2年生の男子のエピソードを一つ添えながら、四中生のいいところやがんばりを、ホームページなどを通じてどんどん紹介していきたいと考えていることを話しました。

次に、「ものを壊すことへの指導はしっかり取り組んで、減らしていきましょう。修繕費をもっと必要なところに使えるように！」ということについてです。人間は、一人で生きていけない動物ではありません。人に迷惑をかける行為に敏感になり、とくにみんなが使う公共物は、大切に扱える心を持ってほしいと思います。

夏休み中に読んだ本の中に、“人は誰でも『必要とされること』『役に立ちたいということ』を欲している。”という部分がありました。当たり前のようなことですが、私ははっとして、そのページを何回も読み返しました。本校の子どもたちに、こういう体験をさせられたらなあ、と真剣に考えました。2学期は、体育大会や文化祭といったクラスで取り組む行事があります。そんなとき、どんなささやかな役割や仕事であっても、クラスの役にたったり、仲間から必要

とされたりする努力を、惜しまずできる人間になってほしいと思います。そうした体験を大事にすることができれば、きっと自分のことも大事に思える人間に育ってくれるのではないかと思います。

さて、三つ目ですが、「子どもたちの方から挨拶してくることが少ない。こちらから挨拶しても返ってこない子どももいる。挨拶ができる学校にしていきたい」ということについてです。社会を生きていく上で、しっかりと「あいさつができる」ということは、とても大切なことです。私は、返事が返ってこようがこまいが、精一杯の声で「おはよう」と声をかけるようにしています。驚いたように「おはようございます」と反応してくる子どももいます。私は、個人の努力目標として、「みんなより先に『おはよう』や『こんにちは』が言えるようにする」と約束しました。冗談交じりで、「もし私より先に挨拶をするようなことがあったら、『勝った！』って言ってほしい」ということも伝えました。もちろん「さよなら」も含めて、ささやかではありますが、挨拶ができる明るい学校にしていくために一役買いたいと思っています。

そんなちょっと理屈っぽい式辞でした。そのあと、乙訓大会をはじめとした様々な顕彰を行ったのですが、暑い体育館にもかかわらず、みんな、とっても静かに顔を上げて聞いてくれました。私にとっては、何回も繰り返してきた2学期の始業式ですが、暑さを忘れるくらいにさわやかな印象で終わることができました。

2学期の子どもたちの活躍に大いに期待したいと思います。